

研修名 保育実践

平成30年12月6日(木) 13:30~16:00

実践発表 「あそびのあしあと」発表者 ルンビニ保育園 山口 佳代 氏  
「絵をみる会」

講師 指導助言 日本体育大学 奥村 高明

## 1 講演要旨

- 1) ①製作をしている子どもを見るのではなく、子どもの視線・手元・動き・対話を見て子供に身を重ねるように見て子どもを指導する。  
②子どもの絵を上手に読み取るには、近づいて辿ってみる。  
そうすることによって何を考えて描いたかわかる。  
③子どもはたった一人では「かけがえのない子ども」になれない。  
さりげない手を大切に。

## 2) 感想

沢山の製作あそびの中で実際にグループワークの時に体験した絵に隠されている思いを見つけて子どもが何を描いたのか予想する講義が楽しく、子どもの絵を見て「なるほど」と思うところもあり子どもたちの視点が面白いなと感じました。また、子どもたちが「先生、できた!!」と絵を持ってきたらどのように対応するか、そこも印象的でした。まず、作品を持ってきた子どもたちには目をみて話す。そして「これは？」と質問をしてすぐに褒めるのではなく「聞く」ことが大切だと学びました。これらはすぐに「取り入れたい」と思いました。

ルンビニ保育園はホワイトボードで保護者の方に伝えたいことを伝えて、ドキュメンテーションをされていて、子どもも保護者の方も楽しくなれるもので良いなと思いました。製作をする場面でも見て参加する保育も良いなと学びました。自由保育で製作をさせてみたところ、子どもたちは強制されていないので、のびのびと取り組んでいる姿が見られて、見て参加している子どもたちも、違う遊びをしながらも「何ができるのだろうか？」と興味を持っていて子どもたちの様子をしっかりと見つめることで子どもの思いが見えてくるのだと学びました。逆に一斉指導するときは「やってみよう」「できるかな？」の気持ちが芽生えるような環境づくりをして、子どもの好奇心、探求心が生まれるように保育していきたいです。

今回の研修を通してグループワークで感じた思いやルンビニ保育園さんで取り入れていた事を私たちの園でも取り入れて保育していきたいなと思いました。



記録 あさひ保育園  
平川 茉友  
長東 奈々美